

高志高等学校ホームページ「入学を希望する皆さんへ」

保護者対象の「高志高校説明会」や、中学校に出向いての「高志高校説明」の際に寄せられた質問を中心に、Q & Aを掲載します。

合わせて、当日の感想から、いくつかを抜粋して紹介します。

今後、新たに寄せられた質問についても、適宜、Q & A等を追加しますので、質問やご意見等ございましたら、お気軽に学校までお問い合わせください。

1 望ましい生徒像

Q 1 どのような生徒が高志高校にふさわしいですか。

高志高校は、「克己、創造、敬愛」の校訓のもと、「国際社会および地域社会のリーダーとして貢献できる知徳体の調和のとれた人材の育成」を教育目標に掲げています。

そうした校訓や教育目標に共感し、自分もそうした人になりたいと思っている生徒に入学してほしいと考えています。

もう少し具体的に言うと、例えば、次のような資質・能力を身に付けている（身に付けようとしている）生徒がふさわしいと言えるでしょう。

「克己」 自律できる力

- ・自分で自分を客観的にみつめ、コントロールできる生徒
- ・学習や部活動、その他の活動等を「やり抜く」ことができる生徒
- ・自分で決めたこと、選んだことを粘り強く続けることができる生徒

「創造」 問題を解決できる力

- ・好奇心の強い生徒、読書が好きな生徒
- ・人の話を聞いたときに手を挙げて質問ができる生徒
- ・思うだけでなく、行動に結びつけることができる生徒

「敬愛」 他者を理解し尊重できる力

- ・国籍や文化を問わず、相手が誰であろうと尊重できる生徒
- ・先輩、先生、学校外の大人と物怖じすることなく、話ができる生徒
- ・自分の考えをもっている生徒、それを口頭や文書で堂々と発信できる生徒

そのためには、目的意識が大切です。将来社会に出たときにどのようにして社会に貢献したいのか、そのためのプロセスとして、高校や大学でどのようなことを学びたいのか、どのような高校生活、大学生活を過ごしたいかなどについて、中学のときから考える習慣をもつと良いと思います。

2 教育課程、学習指導

Q 2 進学型単位制教育課程とは、どのような教育課程ですか。

A 2 将来の大学受験に備えて、自分の進路実現のために必要な教科・科目を選択できるように、多くの選択科目を配置した教育課程を「進学型単位制教育課程」と呼んでいます。学年が上がるごとに選択科目が増え、特に3年次には、進路志望に応じて、20単位分以上の「選択科目群」の中から選択できます。

このときに、効率よく学習できるよう、理系、文系とも3つ類型（類型a、b、c）に分かれ、教科・科目を選択して、学習することになります。

※類型については、Q 6を参照してください。

Q 3 内進生に比べて高入生は授業進度が速いのではと思いますが、補習等のフォローがあるのでしょうか。

A 3 授業進度が速いことを理由とした補習等はありません。

高志高校では、中高一貫教育を始める前から、理系の理科（「基礎」のつかない「物理」、「化学」等）を除いて、ほとんどの教科・科目について、2年次までに教科書の学習内容をほぼ終えてしまう教育課程を実施してきました。

これは多くの教科・科目を一定のレベル以上学習して受験する必要がある国公立大学入試に対応するためです。

Q 4 補習はありますか。課題の量はどうか。

A 4 数学など一部の教科で、定期考査での成績不振者に対して、補講や再テストを行っています。

全生徒を対象に、年8回程度、土曜日の午前中に課外を実施しています。また、希望者を対象に、ハイレベル模試への対応講座等の土曜講座を、年に数回、実施しています。

課題については、日々の予習に加えて、基礎的な知識の蓄積や自宅学習用の教材として、「単語帳」や「問題集」等を配付しています。週明けには、漢字や古文単語、英単語のテストなどが計画的に行われています。

できるだけ、生徒一人ひとりが自主的に学習できる時間を確保するために、共通の課題を減らす検討を行っています。

Q 5 1、2年生は高入生と内進生が同じ授業を受けることはないのでしょうか。

A 5 1年次には体育や芸術で同じ授業を受ける場合があります。2年次でも、体育の授業で同じになる可能性があります。2～3クラスをまとめて講座を組み、同時に学習するためです。

3 クラス編成

Q 6 クラス編成、文理分けは、どのように行っているのですか。

A 6 1年次と2年次は、高志中学校から進学した生徒（内進生）と高校入試を経て入学した生徒（高入生）は別クラスとしています。

2年次になると、文系と理系に分かれます。さらに、難関大等への進学を前提にして教科の発展的な内容も学ぶ「発展クラス」と、幅広い進学志望に対応し丁寧に学習をすすめる「標準クラス」に分かれます。

3年次になると、自分の興味・関心や志望大学に応じて、文系、理系ともに、類型a、類型b、類型cの3つの類型、つまり、合計6つの類型に分かれます。

類型aは、難関大学を志望する類型、類型bは、その他の国公立大学を志望する類型、類型cは、芸術や家庭科等の科目をより多く履修できる類型です。

Q 7 高志中学校から進学した生徒（内進生）と高校入試を経て入学した生徒（高入生）は別クラスになるのでしょうか。

A 7 Q 6にあるとおり、1、2年次は別クラスですが、3年次は混合クラスになる場合があります。

ここで言う「混合」とは、内進生と高入生が同じクラスで学校生活を共にするという意味です。

3年生になると選択科目が増え、大学受験の科目等、必要に応じて授業を選択して学習することになるので、同じクラスの生徒であっても別々の科目の授業を受けることとなります。進度や難易度に応じた授業が同時に開講されるので、生徒によっては、生活をしているクラスから、講義室や学習室等に移動して、他のクラスの生徒と同じ授業を受ける場合もあります。

4 中高一貫教育

Q 8 内進生と高入生との融和はスムーズに行われるのですか。

A 8 1、2年次の間は、授業が別々に行われることが多いので、最初のうちは、生徒の中に内進生と高入生という意識があることは否めません。

しかし、学年全体でのLH、部活動、学校祭等を通して、同じ高志高校生として協力し合って活動することで、両者とも生き生きと活動するようになります。

Q 9 運動部のグラウンドや体育館の使用は、中学生と共用になるかと思いますが、部活動時間等の制約はあるのですか。

A 9 限られた時間の中で、グラウンドや体育館を分け合って使っているため、多少の時間的制約はあるのは事実ですが、大きな支障にはなっていません。参考までに、部活動の完全下校時間は、以下のとおりです。

完全下校時間 中学生 18時、高校生18時55分

一方で、高校生が中学生を教える場面もあることで、高校生が自主性やリーダー性を養うこともできるという、他の高校では見られない面がうかがえます。

Q 10 内進生と高入生の学力差は、どのくらいあるのでしょうか。

A 10 他の都道府県の中高一貫校に見られる一般的な傾向として、「内進生は3年、6年の間に学力に開きが現れるようになる。一方、高入生は、高校入試を経てある程度の幅におさまった学力層の生徒が入ってくるので、内進生ほどの学力差はない。」とされています。その傾向は、本校にも当てはまります。

5 生徒指導

Q 11 自転車通学の条件(許可される距離など)を教えてください。

A 11 原則として制約はありません。ただし、福井駅～本校間の自転車通学は許可していません。

Q 12 最近の災害状況を踏まえ、学校での災害時の対応は、どうなっていますか。

A 12 台風や豪雨、大雪等の自然災害が発生した際、発生する恐れのある際には、緊急メールシステムで、生徒諸君・保護者に速報します。高志高校は一次避難所としての指定を受けていないため、食糧・水の備蓄はありませんが、自動販売機は災害時対応のものを設置しています。

災害発生時の「危機対応マニュアル」を整備し、万が一の際に教員や生徒がとるべき行動を定めています。毎年、避難訓練を実施するとともに、AEDの使用方法等についても、研修を行っています。

Q 13 スライドを見ると、体育祭の色分けは3色だったように思うのですが、どのようにして色分けしているのですか。

A 13 以前は高校が各学年8クラスあったため4色に分けていました。ただし、中学校は3クラスなので、各クラスの生徒を4色に分けていました。

現在は高校のクラス数が各学年7クラスに減り、3学年合計で21クラスと3の

倍数になったので、色分けを3色にしました。

色ごとの各学年のクラス数に差はできるのですが、色別の生徒数、男女比等に配慮しながら抽選をして、3色に分けるようにしています。

6 進学指導

Q 1 4 子どもは将来建築家希望ですが、それに向けてのご指導など、ありますか。

A 1 4 建築系をはじめとして生徒は様々な進路希望を持っています。その希望を実現するためには、それを専門的に学べる大学・学部に進学する必要があります。

そこで、本校では、生徒には1年次から大学のオープンキャンパスへの参加を促すとともに、3年次には希望の大学の入試に応じた特別講座等を開講し、生徒の進路希望の実現に努めています。

Q 1 5 大学入試制度改革に対する貴校の取り組みについて、現高校2年生は大学入試制度改革に伴う「大学入学共通テスト」初年度受験者になりますが、貴校においては生徒に対して、どのような取組をしていますか。

A 1 5 英語の民間の資格検定試験は延期になりましたが、大学受験のためだけでなくグローバル化の進展への対応として、英語4技能のバランスのとれた育成に努めています。具体的には、毎日の朝学習において、NHKの英語ラジオ講座に、学年全体で取り組んでいます。

また、1、2年生はGTECを全員受験しており、英検も多くの生徒が受験しています。

国語と数学の記述式への対応については、日頃から難関国立大学の受験を想定して、思考力や表現力を重視した授業を行っており、定期考査においても「大学入試共通テスト」の記述式を意識した問題づくりに努めています。

Q 1 6 主な合格実績を教えてください。

A 1 6 進学実績についてはHPをご覧ください。

トップページの右上にある「高等学校のご案内」のメニューから、「進路指導」→「進路状況」とたどっていくと、過去3年間の合格実績を見ることができます。

Q 1 7 大学受験に向けた個別指導がどのような内容か、具体例を伺えませんか。

A 1 7 これまでの例でいいますと、例えば3年次に、生徒の志望校別（東大・京大・難関大学・ブロック大学・地元国公立大別）の特別講座を、長期休業中や大学入試セ

ンター試験の後などに行っていました。

令和2年度以降は、進学型単位制教育課程が適用されることから、授業での学習自体が志望校別の学習のような性格のものに変わりますので、さらに大学進学に向けた学習が充実することになります。

小論文や実技、面接が必要な生徒には、その一人一人に担当教員を割り当てて指導しています。これは高志高校が県下で最も早く取り入れた指導方法です。

また、生徒が、個別試験の英語や数学などの問題等を自主的に解いて教科担任に提出し、放課後等にその添削指導を受けている姿は、本校においては、当たり前の光景となっています。

Q 1 8 高志高校の卒業生はほとんどが大学に進学するという話ですが、大学卒業後の活躍の様子はわかりますか。

A 1 8 高志高校の卒業生は、大学・大学院を卒業した後、様々な仕事に就職しています。毎年、卒業した社会人が母校に戻ってきて、在校生に仕事や大学での学問の話をしてくれますが、その顔ぶれは、様々な業種・職種に分かれています。
卒業生の中には、大学卒業後、福井に戻って会社を経営する方が多数います。また、外国で活躍する人、大学に残って教員・研究者となる人もいます。

7 探究型学習、SSH

Q 1 9 SSHで育てようとしている力について教えてください。

A 1 9 高志高校は福井県で最も早くSSHに指定された高校として、これまで研究開発・実践を積み重ねてきました。課題研究を中心とした探究型学習により、主体性、社会で求められる力を育成しています。
具体的には、次のような力です。

- 課題を見つける力、「問い」をたてる力
- 課題を解決する力、正解でなく、「納得解」「最善解」を見つける力
- 自分の考えを分かりやすく表現する力
- 他者との対話、議論を通して考えを深める力

Q 2 0 課題研究では、3年間でどのようなことに取り組むのですか。

A 2 0 課題研究の3年間は、概ね次のような流れをとっています。
1年次 探究活動のスキル等を習得する。
探究のサイクルを理解する。

2 年次の課題研究のテーマを考える。

(内進生は課題研究に着手します。)

2 年次 4 人前後でテーマを設定し、グループで課題研究を進める。
研究の途中経過、結果等をポスターやプレゼンテーションに
まとめる。

1 0 月 選択型研修旅行で経過報告

2 月 課題研究中間発表会で発表

3 年次 2 年次の研究を継続・発展させる。

研究成果を報告書・論文、英語レポート等にまとめる。

7 月 課題研究最終発表会で発表

(高校での)「学びの履歴書」、(大学での)「学びの設計書」等を
作成する。

Q 2 1 S G H の研究指定が終わり、W W L が始まっているとのことですが、W W L では
どのようなことを行っていますか。

A 2 1 W W L (ワールド・ワイド・ラーニング) 事業は、令和元年度から始まったグロ
ーバル人材育成をねらいとした文部科学省の研修指定事業です。

金沢大学附属高校を拠点校とした北陸 3 県の W W L コンソーシアムには、県立金
沢泉丘高校をはじめとする石川県の数校のほか、富山県から県立高岡高校、福井県
から高志高校が参加しています。

数年後の、国際高校生会議の開催を視野に、同一の目的・テーマに対して、各高
校の特色を踏まえた異なるアプローチで、課題研究を進める計画です。

毎年、「S D G s フォーラム」(仮称)を開催し、海外大学生を交えたワークショ
ップを行うほか、グローバルな社会課題研究のカリキュラム開発を進める予定です。

8 選択型研修旅行

Q 2 2 海外研修・海外交流について聞かせてください。

A 2 2 これまでは海外 8 コース、国内 2 コースで実施してきました。内訳は以下の通り
です。どのコースを選択しても、大学や高校との交流、研究機関や企業等での研修
が体験できるように工夫しています。

サイエンス研修

アメリカ東海岸、アメリカ西海岸、オーストラリア、
マレーシア、シンガポール、国内(首都圏)

グローバル研修

オーストラリア、タイ、ベトナム、国内(首都圏)

Q 2 3 2 年次までの研修旅行の積み立ては月々いくらぐらいになりますか。

A 2 3 1 年次の4月から、毎月、1 万円を積み立てます。1 年生は1 2 万円、2 年生は6 万円の計1 8 万円を積み立てます。

研修旅行が終わった後に、コースごとに経費を精算し、追加の集金や返金を行っています。

9 授業料、学納金等の経費

Q 2 4 入学後必要な費用について教えてください。

A 2 4 入学時に必要な費用は、教科書・教材、制服・体操服・シューズ、入学料などで約1 2 万円強になります。

授業料（9 9 0 0 円）については、両親年収が約9 1 0 万円未満の場合は、就学支援金の対象となり、授業料の負担はなくなります。

1 年次の授業料を除いた学納金は、研修旅行の積立も含めて、月額約2 万円です。

1 0 高校入試

Q 2 5 今年度の募集人数、昨年度の合格平均点を教えてください。

A 2 5 今年度の募集定員は、1 6 0 名です。

合格平均点は、県教育委員会が非公表としているため、お答えできません。

Q 2 6 1 1 月の「学力診断テスト」での目標点数を教えてください。

A 2 6 「学力診断テスト」についてのデータは、高校は知ることができません。過去のデータ等については、中学校の先生にお聞きください。

Q 2 7 昨年度合格者は全員英検準2 級以上合格者ですか。

A 2 7 平成3 1 年度入学生の場合は、高入生1 6 0 名のうち、英検の合格状況は以下の通りでした。

2 級：2 名、準2 級：1 2 8 名、3 級：2 6 名、なし：4 名

Q 2 8 英検の加点は、どの程度合否に影響しているのですか。

A 2 8 英検による加点は、高志高校の場合、英検準 2 級以上を取得した生徒について、加点後に 1 0 0 点を超えない範囲で、英語の学力検査点に 5 点を加えることにしています。

合否は 5 教科の学力検査と調査書に記載されている 3 年次の評定、その他の総合的な判定で行うので、英検の加点が直接合否にどの程度影響するかを詳しく分析はしていません。

ほとんどの受験生が準 2 級以上を取得しているので、影響していないという見方もできますが、合否ラインにいる受験生の場合は 5 点の加点があるかどうかは大きいとも言えます。実際のところ、総合点の 1、2 点の差で合否が分かれるというのが、現実の状況です。

1 1 その他（保護者対象「高志高校説明会」のアンケートにあった質問、中学校で

実施した「高志高校説明会」の場で出た質問）等

Q 2 9 高志中学校の生徒は、数学で先取りをされていて、かなり先を進んでいると聞いたことがあります。高校入試で入学した生徒でも追いつくことができるでしょうか。

A 2 9 高志中学校の生徒は、数学と理科で高校の内容を一部先取りして学習しています。

そのため、内進生と高入生は、1、2 年生の間は異なる教育課程で学んでいます。

Q 3 の回答にもある通り、もともと高志高校では、中高一貫教育を始める前から、理系の理科（「基礎」のつかない「物理」、「化学」等）を除いて、ほとんどの教科・科目について、2 年次までに教科書の学習内容をほぼ終えてしまうので、3 年次には、高入生が内進生と同じ授業を受けられるようになります。

理系の数学や理科などの一部の科目では、最後まで異なる授業を受けるという場合もあります。

Q 3 0 先生の在籍期間はどのくらいですか。（進路指導に優れた実績のある先生に長く指導してもらいたいの）

A 3 0 異動がない私立高校に対して、県立高校の先生方には異動があります。福井県の県立高校では、概ね 7 年から 1 0 年を経過した先生方が異動の対象となります。

高志高校や藤島高校のような進学校では、担任や進学指導の継続性を考えた人事異動が行われています。

学習指導、進学指導の継続性は、進学校にとってとても重要な話です。

高志高校には、授業名人やふくい優秀教職員を始めとして、指導主事の経験者や県外進学校派遣経験者など、優れた先生が多数在籍しています。

高志高校、高志中学校の先生方は、高校と中学校の両方の辞令を受けており、校種を超えて授業を担当したりしています。そうした経験をいかして、大学受験を常に念頭に置いて学習指導を行っています。

Q 3 1 学校説明の中で、「SSHやSGH、中高一貫教育など、常に革新、挑戦が続いている」と言っていましたが、僕たちが入学するときにも何か新しいことに挑戦するのですか。

A 3 1 文科省の研究指定や、中高一貫教育など、学校のかたちを大きく変えるような新しい動きは、ここ数年はないかもしれません。目下、先生方は、中高一貫教育や探究的な学習の質の向上を目指して、検討を重ねているところです。

一方で、今、生徒会執行部を中心に、生徒会活動の活性化や校則の見直しなど、自分達で自分達の学校生活を改善しようという動きが出てきています。君たちが入学したあとに、行事や校則の見直しが行われる可能性はあると思います。

Q 3 2 学校案内に、入学定員や生徒数など、学校概要、規模などの記載はできませんか。

A 3 2 入学定員は、例年 10 月に県教育委員会が発表しますので、「学校案内」には記載できません。

生徒数や通学している生徒の状況等、学校の概要がわかる「学校要覧」をホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

保護者対象説明会の感想

- ・子どもが、入学する高校を選択するにあたり、成績のみを頼りにするのは、適当でないと思い、説明会に参加させていただきました。
「高志高校が魅力的な学校である」と親である私も、思うことができました。
- ・具体的な指導方針から、学校生活まで幅広くお話いただいたので、イメージがわきやすかったです。
- ・今回の説明会に来たことで、貴校のグローバル人材育成に向けた取り組み、生徒の学力向上に向けた取り組み、フォロー方法等を知る事が出来て、良かったです。

- ・他の高校と比べてもとても分かりやすい説明でした。「高志高校に子どもを受験させたいな」と思える内容でした。
- ・内進生と高入生の関わりのことや、高入生にも力をいれてくださることがわかってよかったです。
- ・今春、姉が素晴らしい高志高校を卒業させていただいたことを誇りに思いました。弟にも頑張ってもらいます。
- ・自分が通っていた時代とは違う、社会で求められる力に対してのきめ細やかな試みがなされていることが、よくわかりました。
- ・事前にあった質問とその答えが共有でき、志望校選択の大きな材料となりました。
- ・卒業された方ともつながりがあるのが良いと思いました
- ・「自主性」ということを大切にされている点が、非常に印象に残りました。